

(市川市PTA連絡協議会研究大会報告書)

第3分科会 テーマ 中学・父親とPTA 司会 PTA連絡協議会副会長 (若宮小)

<発表内容>

参加者16名(内訳 保護者11名、教員5名) (内訳 男性14名、女性2名)

■父親のPTA活動への参加の現状は？

- PTA活動に参加する父親が少ない
- 入学式・卒業式・運動会などの学校行事に参加する父親は多い
- PTA活動は母親しかしていない(PTA活動は母親まかせ)

実は、PTA活動に参加したい父親は多いのではないかな？



■なぜ父親は参加しないかな？

- 参加したくても敷居が高く感じ、参加するのに勇気が必要である
- 小学生の時は親子で一緒に参加していたが、中学生になると父親が学校に来るのを嫌がる
- 仕事が忙しくて時間がない、時間があわない
- 参加する意思がない(必要性を感じない)
- 参加してみたら、役割が不明確であり非効率的で無駄が多く感じられ参加する意欲を失う

■どうすれば父親が参加するか？

- 参加しやすい(最初の一步の)きっかけをつくる
- 参加した場合の役割を具体的に明示する
- 父親の得意分野(仕事、スポーツなど)をいかせる活動を行う
- 参加(手伝い)の呼びかけをおこなう
- 「親父の会」をつくる(現状: 親父の会」がある中学校は16校中7校である)
- 全ての父親を、無条件で「親父の会」の会員としてしまう
- 自分の子どもが主人公の行事を増やす(自分の子どもの為なら参加する)
- 学校で「父親の日」をもうける

■父親が参加することのメリットは？

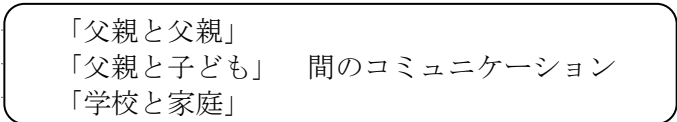
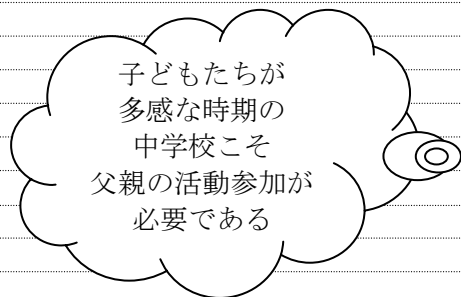
<父親として>

- 子どもと(夫婦間)の共通な話題ができる
- 様々なことにかかわれて楽しい、充実感がある
- 仕事以外の知り合い(友人)ができる
- 子どもの教育などについて様々な情報交換がきける

<学校として>

- 母親と違った考え方を学校経営に取り入れられる
- 多感な中学生にとって、父親以外の大人の意見をきける
- 男手が必要な作業や行事ができる

■PTA活動に多くの父親が参加することで、学校経営に父親の視点をいれることで、新たなコミュニケーションが生まれる



良好

